

平和への願い
～埼玉県平和資料館～



戦争と平和
について考える

比企丘陵自然公園の一角、物見山から東に約300メートルほどの丘陵に、「平和資料館」があります。ここは、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることを目的に、平成5年に開設されました。

地上1階、地下2階の細長い建物には、160席の多目的講堂があり、オリエンテーション映画として制作した「青い目の人形物語」や「最後の空襲くまがや」のアニメ映画を定時上映しています。

その他、マルチライブラリーがあり、資料検索、図書閲覧、ビデオ鑑



賞ができるようになっており、また、分類展示室では、約1,200点の資料を展示しています。

館内の動く舗道に乗ると、トンネルの天井や左右に映像が投影され、やがて昭和初期にタイムスリップする常設展示、戦時中の一日を疑似体験するコーナー、ギャラリイ展示、企画展示室があり、各種の企画展示が行われています。また地上40メートルの展望台もあり、晴れた日には、都心の高層ビル街や富士山など関東一円が眺望できます。第2次世界大戦が終結して60年以上が経過し、人々の記憶の中から先の大戦の惨禍が忘れ去られようとしています。しかし、現在の平和な社会の繁栄の裏には、戦争による

多くの人々の犠牲と苦しみがあったことを忘れてはなりません。こうした過去の悲惨な戦争体験を教訓とし、平和な社会の構築のために努力していくことが、私たちに求められます。

Quest for History

歴史探求

比企丘陵の豊かな自然に恵まれた東松山市は、古代から人々の生活が営まれてきました。中世には武蔵武士団が活躍。戦国時代になると青鳥城や松山城が築かれ、戦さも展開されました。近世になると天領や旗本領となり、主要街道の宿場町として繁栄。明治以降、素朴な農村から、昭和29年に1町4村が合併して市制施行され、比企地域の中核都市として着実に発展してきました。そんな東松山市の歴史を振り返ってみます。